

太平洋諸島ストップTB会議

第1回

結核研究所国際協力部企画調査科長 須知雅史

6月26日、29日、フランス領であるニューカレドニアのヌメアにある太平洋共同事務局(SPC)本部において、第1回太平洋諸島ストップTB会議が、同事務局と世界保健機関西太平洋事務局(WHO/WPRO)の共催により開催されました。太平洋に浮かぶ21の島しょ国や地域、つまりフィジー、サモア、バヌアツなどの国々、そしてグアム、サイパンやニューカレドニアなどの地域(米領や仏領)から、18の国や地域の結核対策担当者、そしてアドバイザーとして結核対策専門家、SPCやWHOからの事務局関係者など総勢60名ほどが出席しました。

この地域には、人口は300万人弱と小さいものの、WHO/WPROの37の加盟国・地域のうち過半数の21が含まれており(パプアニューギニアを除く)、地域の結核患者届出率は人口10万対59と西太平洋地域の平均51に比し高い状況です。また、人々は多くの小さな島々に散らばって生活しており、適切な患者発見と治療の提供が困難であることが特徴です。そこで、本年2月のWHO/WPROの第1回結核制圧技術諮問会議を受けて、この地域の特徴に配慮しながら「太平洋ストップTBイニシアチブ」と「太平洋結核制圧戦略計画」の立ち上げを目指したのが今回の会議でした。

会議では、世界や西太平洋地域の結核の現状、2月の会議で採択された西太平洋地域の結核制圧戦略計画が説明され、続いて参加各国の結核対策への取り組みが発表されました。すべての国と地域がすでにDOTS戦略を国家結核対策の基本として採用しているか、近い将来に採用する予定であり、

マーシャル諸島、ミクロネシア、バヌアツなどいくつかを除く国と地域では、全国でDOTS戦略が展開されていると報告されました。また、DOTSセンター(喀痰塗抹検査を行うことができ、患者発見、入院治療、そして治療成績の評価まで一貫してできる結核基本ユニットをこの地域ではこう呼ぶ)の数が、国の人口を反映し1カ所から数カ所と少なかったことが印象的でした。

その後、各国個別の活動計画の作成と参加者全員による戦略計画の協議が行われ、以下の目的、目標が掲げられました。

- ①2010年までに太平洋地域の結核問題を半減させる、
 - ②DOTS戦略を保健システム開発の国の計画と調和させる
 - ③DOTS戦略実施の目標 すべて
 - ④推定新塗抹陽性患者の70%を発見する、加えて、保健システム開発、薬剤供給と薬剤の質、モニタリングと評価についても、今後改善することを目標としました。
- 太平洋という広大な地域に散在する人々、しかし、そこにもまた結核が大きな問題として存在しています。その問題解決に向けた第一歩がしるされた4日間の会議でした。

